

令和5年神奈川県議会第3回定例会 文教常任委員会

令和5年12月13日

意見発表

○鈴木ひでし委員

私からは質疑の内容をまとめた形で、6点ばかりお話をさせていただこうと思います。

第1点は、USBをなくした、また紙をなくした等々の報道を受けた中で、クラウドを持っていた中で、そしてなおかつ、また教員の皆様方が一教員ワンIDを持っていながら、なぜこういうようなことが起るんだろうという素朴な疑問から質問をさせていただきました。やはり、自分が必要な情報が出てくるというためにクラウドがあるわけです。その活用について、しっかり今後、見直していっていただきたいというのが、第1点目でございます。

第2点目は、私も質問の中で言わせていただきましたが、知事部局では市町村と県とのクラウドの連携ができている。教育委員会の中では県立学校との連携というだけで終わっていると。私はそうじゃないんじゃないかなと。やはりこれから市町村の教委の方々とクラウドをやっぱり共有していく中で、何が問題なんだ、また何が実は現場では必要なんだということを、もっとやっぱり市町村の教育委員会の方々と一緒にクラウドという運営に持っていくべきやいけないんじゃないかなという思いがしましたので、いきなりシステムの問題、クラウドの問題もあると思うので、いきなりすぐやってくださいというわけにいきませんけれども、ぜひとも幹部の皆さん方の御尽力もいただいて、全国に先駆けたような形でのそういう対応をお願いしたいというのが二つ目でございます。

三つ目は、同じクラウドに関わることですが、私、このワンIDを持っているんであるならば、やはり子どもサポートドックというのを持っているんなら、私、教師のサポートドックってあってもいいんじゃないかなと私は思っています。その中から見てみると、逆にワンID持っている方から、いろんな例えばこうなったら私たちも働き方改革、いやそれは現実の現場と、またもちろんフィジカルな形は違うと思いますが、こういうテンプレートがあれば、もっと時間が使わなくて済む等々、いろいろアイデアが出てくるんじゃないかと私は思いまして、今、県としてある意味ではそういう組織的なものでもって代表者の方々との検討会をやっていらっしゃるかと思いますが、私はメールでも等々でもいいですから、現実にどんどんクラウドを活用した形でのアイデアを募集しますというような、仮称教員サポートデスクというのをつくってもいいんじゃないかなと思いますので、提言も交えて3点目お願いしたいと思います。

4点目は、お話をさせていただいて検討いただけるというお話でした。教員志望の方々の有償のボランティアについて、OJTという観点からも、やっぱりいい方をしっかり配役していくんだという観点から、私、いい形になってくださいなというような思いで提言をさせていただきました。前向きに捉えてやってくださるということですので、ぜひともよろしくお願いを申し上げたいと思います。

5番目は、提言申し上げた中で出てきている教育委員会として、バナーをとにかく県のトップページに教育委員会ってないのはおかしいんじゃないかという、早速、手を打っていただきありがとうございました。ただ、中身を見れば申し訳ないですけれども、今頃コロナですと、またインクルーシブ教育をトップに載せるということ自体、それは時期と合っていないんじゃないのと。

これだけやっぱり不登校、いじめの問題があるんであるならば、すぐにバナーにアクセスできるという、タイムリーな形でのホームページの在り方というのをしっかりと対応していただきたいというのが（1）で、（2）は課長さんともやり取りやらせていただいたけれども、県の窓口というのは、不登校の方々の場所というのは総合教育センターですと。ところが開いたらば、みんな教員の研修しか出てこないと。ここどこに不登校なんてあっているんですかという、まるで何かわけの分からぬ、私から言わせれば。それで、県民に不登校の方々や、またいじめ等々で苦しんでいらっしゃる方が即そこに飛べるような、やっぱり万全な体制を私はつくっていただきたいというのが5点目でございます。

最後は、私自身も提言させていただきましたが、国の予算を使って不登校の方々の支援教室をつくるという、それも一つのアイデアだと思います。しかし、今日の朝の朝日新聞だったですか、熊本のほうでは不登校対策ということでロボットを使っての具体的な、要するに生徒さんたちと、吉藤さんなんかが造ったO r i H i m eと似たような形ですか、ああいうところまで進んでいる中で、やっぱりただただ教室を造る、そこに入れるというだけじゃなくて、私も2年間かかって福祉子どもみらい局とつくりましたけれども、やはりひきこもりの方々の集える場所、また、私自身もアバターで入ってみたり、知事も先日、障害の皆様方の広場に入ってくださって、想像以上の方々が参加してくださいたということで喜んでいらっしゃったというお話もあって、やはりこんな言い方失礼ですが、もっと教育委員会として具体的な不登校対策というのは、バーチャルな世界でのアバター、また対応というようなものも、もっともっと研究して進めていかなければいけないんじゃないのかというふうに私は思いました。そういう意味で、バーチャルな形でのものというのをこれからまた勉強していくだけがいいふうに思いますが、私はその中で、福祉子どもみらい局等々との情報交換なんかしていただきながら、一刻も早い、また新しい形での不登校対策というようなものをつくっていただくことを最後に要望して、発表を終わりにさせていただきたいと思います。

公明党の会派として、諸議案に賛成をさせていただきます。